

平成28年度八王子市立中学校使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

種目 外国語(英語) (1/2枚目)

外国語(英語)部会 部長(堀内 雄士)

調査の観点	発行者名	東京書籍	開隆堂	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
1 内容 (1)発達段階に即している (2)興味・関心を引き出す配慮 (3)本市の学力の実態へ配慮		(1)・全体的に簡潔な短文で構成されている。 ・小中学校で学習した表現を確認するための「Hi, English」が7ページある。 (2)・文法、語彙、コミュニケーション活動等がバランスよく扱われている。 ・Partごと、見開きでまとめられている。 ・「なでしこジャパン」「ハリーポッター」など、生徒にとって親しみやすい題材が扱われている。 ・「災害」に関わる内容では、実際に必要な災害に関わる取組等が扱われている。 (3)・特筆すべきことはない。	(1)・1年生の入門期に辞書指導が記載されており、生徒に辞書を引く機会を多く与えることができる配列である。 (2)・民族性や将来に関する身近な話題を取り上げている。興味を引く内容で構成され、読もうとする意欲を引き出す工夫がされている。 ・セクションごとに、言語活動、文法が左のページ、右は本文という見開きとなっている。 (3)・特筆すべきことはない。	(1)・「日本」「国際」「科学」「平和」など様々な分野を取り扱っている。 ・「The Diary of Anne Frank」では、アンネの書いた日記の内容が掲載されている。 (2)・Lessonごと、リスニング・ライティング・スピーキングを常に扱っている。 ・学校行事と連動したテーマが多く、興味・関心をもちやすい工夫がされている。 ・身近なことから始まり、人権問題や平和へとトピックを発達段階に応じて広げている。 (3)・特筆すべきことはない。	(1)・巻末の付録の読み物が充実している。 ・第1学年の入門期は、音声から入る構成になっている。 (2)・身近な題材からスポーツアメリカの生活など題材に幅があり、生徒の知識を広げる工夫がされている。 ・「世界」「平和」などの題材が選ばれている。 ・「GetPart」で基礎、「UseRead」で応用となっており、生徒の意欲を引き出させる配列である。 (3)・特筆すべきことはない。	(1)・「The Diary of Anne Frank」では、アンネの書いた日記の内容が掲載されている。 (2)・有名なスポーツ選手のことが記載されており、生徒の興味・関心を引き出す工夫がされている。 ・ロボット技術や盲導犬などを取り扱っており、生徒が社会に出るために知っておくべき情報が扱われている。 ・LessonごとHop(主に「聞く」「話す」「書く」)Step(主に「読む」)Jump(振り返り活動)が位置付けられている。 (3)・特筆すべきことはない。	(1)・「How Do They See Japan?」では、外国人から見た日本について記載されており、客観的に日本について見つめなおす機会となる題材である。 (2)・ロボット技術や日本の伝統・文化などの題材が扱われている。 ・CLILで他教科と合わせた学習活動を行う工夫がされている。 ・会話文と比較すると説明文が少ない。 (3)・特筆すべきことはない。
2 構成及び分量 (1)内容の組織配列、発展的記述 (2)発達段階に配慮した分量 (3)基本事項の押さえと補充教材 (4)発展教材への配慮		(1)・Unitの構成は、「聞く・話す」→「読む・書く」という順序になっている。 ・Read & Thinkのうち1セクションは、新出の文法事項が含まれていない。 ・言語材料の配列は、be going to (Unit 2)とwill (Unit 4)が離れている。 ・Starting Outで基本文型の導入、Dialogで聞く、話す、書く練習、Read & Thinkで読む活動、Activityで確認、と1ユニットの中で発展的になるよう構成されている。 (2)・Lessonごとの分量も、Lessonの数も適切である。 (3)・Starting OutやDialogで基本事項が押さえられるようになっている。また、「コラム」で文化的背景を学ぶことができる。 ・文の構成や主語を変化させた場合の語の変化が書かれてある。 (4)・各Unitのあとの「Daily Scene」にて実際に活用する課題を設定している。	(1)・各Programのアクティビティが、「聞く・話す」活動から始まっている。 ・言語材料の配列は適切である。 ・本文の前に、導入としてBasic DialogとActivityが配置されている。 (2)・Lessonごとの分量も、Lessonの数も適切である。 (3)・左ページにTarget Sentence (Basic Dialog)とアクティビティ、右ページに本文という構成により、基本事項がまとめられている。 (4)・「POWER-UP」のコーナーで、「話す・書く」という発表活動ができるように配慮されている。 (4)・「My Project」のコーナーで、段階を踏みながら発表活動につなげる工夫がされている。 ・クイックQ&Aや単語や熟語のつづりと発音など巻末資料が充実している。本文の各ページに音読回数を記入できるようにしている。	(1)・左ページに本文、右ページにTarget SentenceとActivitiesという構成になっており、見やすい工夫がされている。 ・WritingがSpeakingで話したことを書くようになっているので、学習内容の定着につながる工夫がされている。 ・言語材料の配列では、受動態は3年生での学習内容になっている。 ・Speaking, Listening, WritingのActivitiesが本文の横に1ページ分あり、充実している。 ・各レッスン後のReviewで確認できる。 (2)・Lessonごとの分量も、Lessonの数も適切である。 (3)・まとめのCheck It Outが分かりやすくまとめられている。 ・ReviewのReading教材が工夫されている。 ・「綴りと発音」のページがあり、単語を読みやすく導いている。 (4)絵を描写させて表現する内容があり、疑問詞をいかに使うかを学習させているところがある。 ・Chapter Projectで発表活動につなげる工夫をしている。	(1)・Lessonの構成が、Get(基本表現の定着)→Use(Read, Speak, Write)となっている。 ・Getは「聞く・話す」活動が中心になっていて使いやすい工夫がされている。 ・言語材料の配列も適切である。 ・見開き1ページで左に本文、右に導入やアクティビティと分かれていて、使いやすさの配慮がされている。 ・Getで基本文型の導入、UseでReading、Projectで統合的活動と、発展的に配列されている。 (2)・Lessonごとの分量も、Lessonの数も適切である。 (3)・Getで基本事項の定着が図れるように工夫されている。 ・Word Bankのページがあり、語彙を増やすのに役立つ工夫がされている。 ・補充教材は発音記号や発音の仕方など分かりやすく表示する工夫がされている。 (4)・Projectで、好きな有名人や将来の夢を紹介する課題が与えられている。例文の分量を増やすことで表現の幅を広げている。	(1)・Lessonの構成が、Hop(聞く・話す・書く)→Step(読む)→Jump(まとめ)となっている。 ・Hopには語彙を補充するTool Kitがあり、使いやすい工夫がされている。 ・言語材料の配列も適切である。 ・Hopで「聞く」「話す」「書く」、Stepで「読む」、Jumpで振り返りと発展的に記述されている。 (2)・Lessonごとの分量も、Lessonの数も適切である。 ・Lessonごとの分量も、Lessonの数も適切である。 ・Lessonごとの分量も、Lessonの数も適切である。 (3)・「聞く・話す」活動が工夫されている。例えば、「聞く」活動では1回目と2回目に異なる材料を与えたり、聞いた後に「話す」活動を入れたりする工夫がされている。 ・活動に必要な情報がある。 ・リーディング教材は巻末付録にまとめられている。 (4)「Go for It!」で「旅のしおり」「職場体験の報告」などを作成させる際に、生徒が構成を意識して書けるような工夫がされている。 ・各Unitの後の「You Can Do It!」で、学んだことを実際に使って発展的学習ができるようになっている。	(1)Unitの各セクションは、「聞く・話す・書く」の活動が中心であり、まとめに「読む」活動という構成になっている。 ・言語材料では、受動態の扱いが少ない。 ・Activitiesを充実させるために本文の横に1ページ分位置付けている。 (2)Lessonごとの分量も、Lessonの数も適切である。 (3)「聞く・話す」活動が工夫されている。例えば、「聞く」活動では1回目と2回目に異なる材料を与えたり、聞いた後に「話す」活動を入れたりする工夫がされている。 ・活動に必要な情報がある。 ・リーディング教材は巻末付録にまとめられている。 (4)「Go for It!」で「旅のしおり」「職場体験の報告」などを作成させる際に、生徒が構成を意識して書けるような工夫がされている。 ・各Unitの後の「You Can Do It!」で、学んだことを実際に使って発展的学習ができるようになっている。
3 表記及び表現 (1)生徒にとって読みやすい表現 (2)印刷、写真等の見やすさ		(1)・「Word List」では「短縮形」がまとめて掲載されており、生徒の理解を助けるための工夫がされている。 (2)左ページに本文・新出単語がまとめられている。 ・基本本文の表記が全て右ページ上部に固定されていて分かりやすい。 ・レイアウトをシンプルにし、理解しやすい工夫がされている。 ・教科書はAB版である。 ・写真が大きい。	(1)登場人物がマンガ調で描かれており、生徒が楽しみながら学習をすることができるよう工夫がされている。 ・「Basic Dialog」では会話の中で文法事項を説明できる工夫がある。 (2)「Speaking」のセクションでは、全学年とも、会話文が罫線によって区切られている。 ・教科書はAB版である。	(1)・左ページに本文、右ページにリスニングやアクティビティが載せられており、見やすさへの配慮がなされている。 ・文法の説明のページも色分けがしてあり、見やすい工夫がされている。 ・点字の点が立体的になっている。 ・教科書裏表紙の「起きてから寝るまで」の表現が工夫されている。 (2)・実写とイラストがバランスよく掲載されていて、理解を促す工夫がされている。 ・教科書はB5版である。	(1)・Lesson3までは右ページに本文、Lesson4からは左ページに本文があり、形は統一されていない。 ・単元によって字体が読みやすい工夫がされている。 ・各Lessonの初めに、学習内容が明記されており、何を学ぶかを把握しやすい工夫がされている。 ・直接書き込めるページがある。 (2)・「Let's Talk」は、会話形式となっており見やすく、生徒の理解を助ける配慮となっている。 ・教科書はAB版である。	(1)・1ページごとに、「目標」が記載されていて、教科書を読み終わった後に、どんな力を付けるようになっているのかを明確にしている。 (2)・「Word」に掲載されている絵が説明を助けており、生徒が理解しやすいように工夫がされている。 ・文字よりも、絵や写真の方が目立って掲載されている。 ・教科書B5版である。	(1)各Unitのはじめのページに「Start-up」があり、各Unitのイントロダクションを活用できるように工夫してある。 ・日常会話が多く用いられている。 (2)イラストと実写などがバランスよく掲載されている。 ・全体的に写真が少ないイメージがあるが、たくさんの挿絵でカバーしている。 ・教科書はAB版である。

平成28年度八王子市立中学校使用教科用図書調査研究報告書（選定資料作成委員会）

種目 外国語(英語) (2/2枚目)

外国語(英語)部会 部長(堀内 雄士)

調査の観点	発行者名	東京書籍	開隆堂	学校図書	三省堂	教育出版	光村図書
4 使用上の便宜 (1)全体の構成が見渡せるよう配慮 (2)課題発見、解決に向けた学習が効果的に進められる配慮 (3)印刷、装丁への配慮 (4)地域性への配慮		(1)・1年間、さらに3年間の見直し、目標が巻頭に明記されている。 ・イラストで説明され、なおかつ活動のめあてもあり、理解しやすい工夫がされている。 (2)・ユニットごとの目標が明記され、分かりやすい基本文となっている。 ・「Presentation」のコーナーで、「将来の夢」「町紹介」「好きなこと・もの」について、手順を踏んで発表できるよう配慮されている。 (3)・ユニバーサルデザインである。 ・環境に配慮した用紙やインキを使用している。 (4)・特筆すべきことはない。	(1)巻頭に3年間を見通して課題が明記されている。 (2)各学年巻末に「できるようになったことリスト」がとじ込まれており、年に4回学習状態を確認できる工夫がされている。 ・ライティングでは細かく段階を追って学習が進められるように配慮されている。 (3)・ユニバーサルデザインである。 ・環境に配慮した用紙やインキを使用している。 (4)・特筆すべきことはない。	(1)・教科書の使い方、コンテンツが巻頭にまとまっており、全体の構成が見渡せる工夫がされている。 (2)・チャプターごとに、何を学ぶか、何ができるようになるかを明記している。 (3)・ユニバーサルデザインである。 ・環境に配慮した用紙やインキを使用している。 (4)・特筆すべきことはない。	(1)・1年間を見通した学習の流れが巻頭に見開きで明記されている。 (2)・Lessonごとに学ぶことが明記されている。 ・「CAN-DOリスト」がついており、学習の目標が分かりやすい工夫がされている。 ・「For Self-Study」が、自学自習への配慮となっている。 (3)・ユニバーサルデザインである。 ・環境に配慮した用紙やインキを使用している。 (4)・特筆すべきことはない。	(1)・1年間を見通した学習の流れが巻頭に見開きで明記されている。 (2)・本文では目標、付録のページには「話すこと」「書くこと」「聞くこと」「読むこと」の「Can do自己チェックリスト」がある。 (3)・ユニバーサルデザインである。 ・環境に配慮した用紙やインキを使用している。 (4)・特筆すべきことはない。	(1)・コンテンツと教科書の構成説明が巻頭にまとまっている。 (2)・ユニットの表紙に目標が明記されている。 ・「Your Coach」というコーナーで、発展的な言語活動について取り組むための工夫がされている。 ・「英語で学び、考えよう」では、社会科、理科、保健体育科、技術家庭科について英語を通して学べるようになっている。 (3)・ユニバーサルデザインである。 ・環境に配慮した用紙やインキを使用している。 (4)・特筆すべきことはない。
5 重点調査項目 (1) 入門期の対比		・be動詞から始まる配列となっている。 ・基本練習を必ず掲載し、理解しやすい工夫がされている。 ・辞書の使い方が詳しく掲載してある。 ・小学校の外国語活動と「読む」「書く」の二つのパートになっている。 ・自己紹介、be動詞から始まっている。	・be動詞から始まる配列となっている。 ・自己評価用紙が巻末に付いている。 ・アクションカードが付いているので、ゲーム感覚で英語の学習ができる。 ・アルファベットを正規の課(PROGRAM)として位置付けている。 ・ペンマンシップが充実している。	・一般動詞からの始まる配列となっており、小学校の英語活動からの接続はスムーズである。 ・一般動詞を用いた動きのある自己表現が4月から学習できる。 ・綴りと発音の関係の学習のページが4ページあり活用しやすくなっている。 ・Pre-lessonのリスニングは導入として指導ができる工夫がされている。	・be動詞から始まる配列となっている。 ・導入部分、本文の2部構成になっていて使いやすい工夫がされている。 ・外国語活動の内容、自己紹介から始まる。 ・挿絵が実際の生徒の活動と同じような場面になっていて内容が理解しやすい工夫がされている。	・be動詞から始まる配列となっている。 ・別冊Essentialsで、文法や重要語句の確認ができる工夫がされている。 ・小学校の外国語活動、自己紹介、be動詞から始まる。	・be動詞と一般動詞の両方が同時に始まる配列となっている。そのため、自己紹介が早い段階で英語でできる工夫がされている。 ・言語材料としてはbe動詞からの導入である。 ・日常的によく使われる表現が多く含まれている。
(2) 題材について		・自然を題材にした読み物が比較的多い。 ・震災に関係した記述があり、最近の話題を取り入れている。 ・日本の文化についてはマンガを取り上げている。 ・自分の考えをまとめ、それを表現させる指導につなげられる題材が多い。	・火山、回転寿司、和食、けん玉、ヨーヨーなど、日本の文化をたくさん取り扱っており、実際に海外へ日本の文化を発信する際の学習につながる。 ・外国の文化に興味をもてる題材が少ない。 ・自分の考えをまとめ、それを表現させる指導につなげられる題材が多い。	・音楽、自然、平和、歴史、外国の文化、日本の古都(奈良、京都)と幅広い分野の題材を適量な分量で取り扱っている。 ・読み物でも実話を基にしたものを扱っていて、生徒の興味・関心を引く工夫がされている。 ・自分の考えをまとめ、それを表現させる指導につなげられる題材が多い。	・テニスプレーヤーの錦織圭選手を題材にするなど、生徒にも身近な人物を取り上げている。 ・英語圏の国だけではなく、フランス、モンゴル、ケニア、ブラジル、マラウイ、スーダンなどたくさんの国の情報に触れることができる。 ・自分の考えをまとめ、それを表現させる指導につなげられる題材が多い。	・スポーツの話題(福原選手、高梨選手の実例)を通じて、スポーツ選手と言葉について学ぶことができる工夫がされている。 ・働くことについての題材や、アンネの日記を取り上げることによって、英語を読むだけでなく、考えさせる内容となっている。 ・自分の考えをまとめ、それを表現させる指導につなげられる題材が多い。	・杉原千畝を扱った題材がある。日本人の残した功績を学べる題材である。 ・自分の考えをまとめ、それを表現させる指導につなげられる題材が多い。